不快臭が存在する居室におけるカビの生育抑制

川﨑たまみ　潮木知良　京谷隆　吉江幸子　阿部恵子

カビ臭がする高架下休養室内でのカビ対策について検討しました。休養室内の温湿度条件を模擬した恒温恒湿装置内において，壁面を構成する内装材試験片をそのまま設置した場合（水無条件）と，裏側を高湿度に設定し試験片表裏に湿度差を設けた場合（水有条件）における，試験片表面のカビ指数を調べました。恒温恒湿装置内の温度25℃湿度60％設定時は，水無・水有条件共にカビ指数は不検出でした。湿度70％設定時は，水無条件下ではカビ指数が不検出でしたが，水有条件下ではカビ指数が検出されました。湿度80％設定時は，水無・水有条件共に，カビ指数がそれぞれ34.7，96.5を示し，カビが生えやすい環境であることが分かりました。これらの結果から，休養室内では，室内湿度を70％以下に保つことによりカビ発生を抑制できますが，内装材裏側の湿度が高い場合は，湿度を60％まで下げることが必要と考えます。

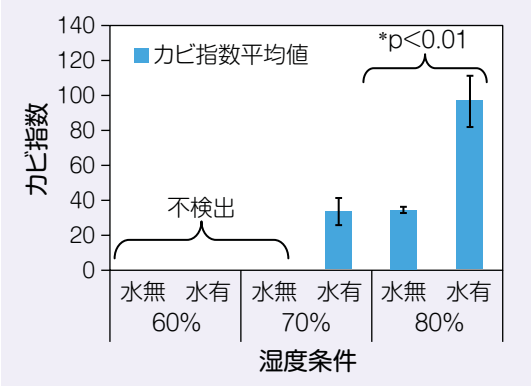

図　湿度条件と試験片表面のカビ指数との関係